

令和5年3月7日

自動車の走行データを活用した 「交通安全 EBPM 支援サービス実証実験」の成果について

経緯

裾野市では地方創生に関するパートナーシップ協定を締結（平成28年12月9日締結）している「あいおいニッセイ同和損保株式会社」と、令和3年度に同社のテレマティクス自動車保険の専用車載器を活用した交通安全イベントを開催、参加者の自動車の走行データを収集し、そのデータから危険挙動発生箇所（急ブレーキ、急ハンドル、急加速、スマホ使用、速度超過等）を可視化した交通安全マップの作製を行いました。さらに、昨年6月からは、同社のテレマティクス自動車保険の走行データを活用し、市道の危険箇所の検証を行う「交通安全 EBPM 支援サービス」の実証実験を行ってきました。この度、市の指定した交差点の検証結果の説明を受けましたので、報告させていただきます。

1. 概要

裾野市が指定した都市計画道路佐野茶畑線と新たに開通した都市計画道路平松深良線（開通：令和3年5月末）の交差点（市立東小学校南東側）の交通安全対策（一時停止標識の設置）前と後の走行車両のデータを収集し、挙動の変化及び更なる対策の検討資料とするため今回の実証実験を共同で行いました。

報告をいただいた資料では、対策前に比べ交差点流入の際の車両速度は低下傾向にあり、その効果が確認できた一方で、一時停止を行わない車両が存在することがデータで確認されました。

本実証実験開始時に目標とした、データに基づく交通安全対策の効果検証並びに危険挙動の可視化に成果が出たことを踏まえ、裾野市では今後もデジタルを活用し、さらなる市民の安全につなげて行くため、当該サービスの検証箇所を増やしていく考えであります。

（参考）「交通安全 EBPM 支援サービス」とは

CSV×DX をコンセプトに社会・地域課題解決に資する商品・サービスの開発・提供を進める「あいおいニッセイ同和損害保険株式会社」のテレマティクス自動車保険のデバイスから取得した走行データを活用し、交通量に対して急ブレーキなど危険な運転挙動の発生頻度が高い地点を把握。把握した危険箇所候補の詳細分析を行うことで、具体的な交通安全対策の提案、効果検証、施策・政策の継続・見直し等の提案へとつなげ、交通安全に関わる施策・政策の有効性向上を支援するサービス。